

五郎君(前磐城高女校長の息、木村高在學中?)から、先日校友會名簿で見たが、どんな生活をして居るかといふ便りがあつたので、手

一月二十二日 一郎

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し、併せて其協力を計り、進取和進努力の實績を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事興行を奨励し、且之を獎勵す。
- 五、本村を本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、餘力を以て國民教育に當る。

内郷村報

天法人則 從順ナ

解散に直面して 候補者へ

大内民恵

議會は突如解散せられた。而して其直後蘇峯學人は、東日紙上に「無謀の解散なるも、無益の解散ならしむる勿れ」の一文を掲げて、

先づ林内閣が政治的要素を缺き、獨善的なるを説き、之に對して政黨の不誠意、無責任、其不振には寧ろ愛想が盡きたと語り、最後に我等は這回の解散を無謀の解散と断言す。されど決して無益の解散とは信じない。而して同時に之を無益の解散ならしむるに忍びない我等は政府にも政黨にも各々其反省を要す。解散を請來したるの責任は、公平に云へば双方に存す。林内閣が政黨者流をのみ省むるは決して公平の見ではない(中略)我等は寧ろ林内閣の猛省を促すに遲疑しない。政黨者流の猛省も同時に必要である。

と結んである。林内閣の所謂公正なる良心を以て、具さに時局を検討して、之を正確に認識し、公平に判断

本報發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を發するものなり。

許りに、同黨異閥も忘れたるが如く、強いて相料合して立ちあがり、一舉林内閣を倒さんす勢ひである。

さて此勝負はどうか、朝軍即ち與黨が勝つたと思れば、文句はないが、負けたとすれば、型破りの越境將軍の事であるから、空前の再解散も敢てしかねまじき事は、相像に難くない。かくて相變らざる、朝野の兩軍が、相對峙するに到る

林首相閣下 四月八日 大内民恵

謹啓 時下春曉の候且つは國家愈々御多事ならんとする時に際して益々御健勝御精勵の段感謝に堪へず候。然れば議會の解散に直而して憂國の至情黙するに忍びず。微衷の一端を披瀝したる一文を草として、我一家の機關紙内郷村報號外より發行。三千の讀者並に各關係方面に頒布仕候。茲に別封を以て同紙二十枚を贈呈致候に付き閣僚各位にも御頒布。東北の一隅に生息する一國民の聲を御聽取下され候て、爲政の御參考に資せられん事を懇願仕候。敬具

(伊藤本縣知事へも同様贈呈)

べきは當然である。又野軍即ち既成政黨が勝つて、朝軍たる内閣が負けて退却したとしても、朝軍の一主力たる軍部から、閣僚を送らぬとすれば、宇垣將軍の二の舞を演ぜざるべからざるに至るや、鏡にかけ見るが如しである。こゝに於て林類似内閣の再出現を、余儀なくせらるゝ事も、亦當然であり、勿論である。かくて現に存在するが如き政黨に、政權の渡

されざ、まはらざる亦勿論であり、必然である。前途遠なる哉である。

林内閣の希望する新政黨、即ち與黨なるものが、來るべき選挙の前後に於て、出現する事はたしかであると思ふ。而して其黨員なるものは、如何なる者が驅り集められるかといふに、既成政黨から抽出せられたるもの、若しくは脱出したるもの、官僚や軍人の古手、財

界の野心家等々の、烏合の衆たるを出てまい。次いで之を統帥する黨主には誰が當るか、恐らく其人を得らるゝかどうか、之亦問題である。

林首相は國民の公正なる良心に懇へて、野に遺賢なからしめんと云つて居る。それは九千萬同胞中には、必ずや聖人も賢人も存在する事は事實であると思ふ。されど考へても見よ。聖人も

賢人も、今日の我政界を嚴密に検討する時に、眞に公正な良心を有する者の存在を、果して見出し得るかどうか、かゝる雰圍氣の中、よしんば聖賢が出現すると雖も、何をかなし得るものぞ。時局の認識は愚か自己をさへ認識し得ざる者が、跳梁跋扈して居るのが今日の世相である。君子は危きに立寄らず、況や没入をやである。

遺憾ながら現在の我國に於ては、三度草廬を訪ねて、孔明を引き出した劉備もなれば、一度冀北の野を過ぎつて、馬群をして空しくらしめた伯樂のあるとも見うけられない。況んや權力金力將た私利私欲情實等々によつて、其一票を行使するが如き有権者に依つて、野に遺賢なからしむると云ふが如きは、之れ木によつて魚を求むるが如きもので、眞に笑止千萬である。

こゝに於て有権者は、來るべき選挙に當面して、如何なる態度をとるべきかが問題である。既に選挙の幕は下ろされた。例の通り例の通りの候補者が、例の通り地盤に、頻々として出現

本報發行所 大内民恵

重の塔さるるか、幾十塔之では危険!と、捧て介すさき、之を開いては、内地の方達は、眼をひつくりかへすかも知れません。一月二十二日夜 きみ

總選舉ニ際シ村民諸君ニ告グ

内郷村長 沼田 濱之助

來ル四月三十日ハ、國民全體ノ決心覺悟ヲ問ハルベキ衆議院議員選舉ノ行ハル、日デアリマス。今ヤ思想的經濟的對外的政治的等々、種々ノ困難ガ叫バレテ居リマスガ、其主ナル原因ハ、申ス迄モナク政治界ノ腐敗ニアルト思ハル、ノデアリマス。同時ニ之レガ改善ハ選舉ノ肅正淨化ガ、其根本條件デアリマスカラ、吾人ニ與ヘラレタル國政參與ノ此機會ニ臨ミ、深ク立憲政治ノ本義ニ鑑ミ、純正公明ノ見地ニ立ツテ、選舉權ヲ行使シ、眞ニ選舉民ノ意見ヲ代表シ得ベキ、高潔練達ノ士ヲ選ビテ候補ニ推シ、以テ國運進展ニ貢獻セラレシト希望致シマス。

捨てるな一票、生かせ人物。

昭和十二年年度歳入歳出豫算

歳 入	歳 出
金一四六、二二三圓	金一五、〇八八圓
歳入豫算額	寄附金
金一、二一九圓	金四、〇〇〇圓
雑收入	線越金
金七二、九七一圓	金一、二一九圓
村 税	雑收入
計金一四六、二二三圓	金七二、九七一圓
經常部豫算額	村 税
金一一、四三四圓	計金一四六、二二三圓
臨時部豫算額	歳 出 (内譯)
計金一四六、二二三圓	金一五〇圓
歳 入 (内譯)	神社費
金一〇、一一二圓	金一、三五〇圓
使用料及手数料	會議費
金三五、八一五圓	金一五、二三六圓
義務教育費國庫下渡金	役場費
金二圓	金二、四〇〇圓
就學 奨勵金	土木費
金一、二八六圓	金九二、七六一圓
交 付 金	小學校費
金九三四圓	金一、三〇六圓
國庫 補助金	内郷村青年學校費
金二、〇三二圓	金五、四八二圓
縣 補助金	内郷村家政女學校費
金四圓	金二、三二二圓
學事諸費	内郷村鑛業青年學校費
	計金一一、四三四圓

金三四二圓	傳染病豫防費	合計金一四六、二二三圓
金三、一九八圓	隔離病舎費	十一年度分追加豫算
金五五五圓	衛生諸費	歳 入
金三三二圓	勸業諸費	金五七九圓
金四四四圓	統 計 費	歳 出
金二、一一六圓	救 助 費	金三七八圓
金一、二七六圓	救 護 費	就學奨勵金
金一、六五三圓	警 備 費	金二〇一圓
基本財産造成費	警 備 費	役 場 費
金一、〇二三圓	財 産 費	
金五〇二圓	財 産 費	
金一六圓	諸税及負擔	
	公金取扱費	

振興會の新事業 大内民恵

本紙三月號に於て報道したる通り、本村振興會に於ては、其筋の令邊に基き、村報を發行する事を議決し、佐藤一、田口淳三の兩氏及予を其委員に、渡邊忠義氏を其書記に推舉したるを以て、關係者一同協議の結果、昭和五年七月以降、予が磐城並に全國知友協賛の下に、獨力發行し來れる此内郷村報に、年額金五拾圓を交附し、特に二頁を増刷して、其目的を達する事に決定し、今月より之を實行する事となつたのである。予が八年前の首唱して、更に顧みられなかつた當年を回顧し、轉た今昔の感に堪へざるを同時に、我村報に此使命を委任せられたるを、無上の光榮とし、關係者各位の御援助の下に、更に一段の微力を致さんと欲するものである。

金一、五一二圓	地方改良費
金七五二圓	雜 支 出
金七〇〇圓	豫 備 費
計金一三四、七九九圓	計金一三四、七九九圓
歳 出 (内譯)	臨時部
金一、七〇二圓	補 助 費
金四三三圓	公 債 費
金一、六七五圓	小學校修繕費
金五八一圓	雜 支 出
金六、四七九圓	辰 入 金
金五六五圓	積立金
計金一一、四三四圓	穀

村 會

二月二十五日の村會に於て議決したる事項左の如し。
一、昭和十年度歳入出決算定の件

區長改選

區長及區長代理は、左記の通り改選せられた。

順序は區順。○点は再選

區長	區長代理
大越 治助	鈴木留次郎
高萩 佐重	桑谷豊之助
鈴木庄太郎	市川 善長
金澤 慶一	鈴木角次郎
山崎 英雄	山崎米太郎
根本 保吉	遠藤萬四郎
齋藤 正春	菅本淺太郎
草野 末吉	草野 利雄
山下喜代治	吉田伊三郎

役場事務分掌

農商文書統計	助役	金澤 爲喜
會計	收入役	齊藤 彌一
庶務議事文書	書記	吉田 仙次
稅務國稅農會	書記	野木 安吉
戶籍赤十字愛國婦人會	書記	渡邊 忠義
兵事土木用度	書記	菅波 郡次
稅務縣稅	書記	小松樹太郎
稅務村稅	書記	山崎 千朝
寄留學務	書記	春日 二郎
一般救護會計補助庶務	書記	渡邊 忠義
衛生軍事救護兵事	書記	沼田 喜信
統計補助職業紹介農商戶籍	書記	渡邊 武明
稅務補助用度	書記	戸田 政喜
農會技術員産業技手	書記	文治

軍旗祭

三月二十五日若松聯隊に於て舉行せられた同祭に、本村よりは菅波兵事主任列席大に感激して歸村。

徴兵検査

本郡に於ては四月二十八日より五月八日迄に舉行本村の受檢者、本籍一一一名、寄留一二四名。

內 鄉 村 學 事 概 報

尋常高等學校(高坂)

尋常科
在籍、一五三。修業生、一三三
一。卒業生、一八八。優等賞、三〇
二。進步賞、四。精勤賞、七六
三。六ヶ年精勤賞、三二。部會賞
四。鈴木光雄、高木信太郎、三浦
ツネ子。

新入學生、三三八。

高等科
在籍、九五六。修業生、五四八。
卒業生、四〇八。優等賞、二〇四
進步賞、七。精勤賞、四九五。八
ヶ年精勤賞、四六。部會賞、七。
佐藤誠喜、坂本政則、長谷川新一
岩間文夫、高橋ミヨ、鈴木靜枝、
工藤愛子。

新入學生、四九九。

中等學校入學者
中學、卷幡勝、沖野明夫、大谷國
利。鈴木光雄、高木信太郎、山口
實、佐川英雄、草野八郎、矢部保
遠藤順平、渡邊登吉、
商業、佐々木音美、中井孝記、伊
達祥一、中本光男、阿部幸雄、佐
藤敬助、富永雅央、
高女、四家節子、小松イヅ子、佐
藤トヨ、吉田宮古、湯澤登貴子
尋六受持訓導、鈴木孝親、松井浩
鈴木キミ

教員移動、轉出、佐藤武、鹿島小
學校へ。遠藤キヨ、四倉小學校へ
退職、山岸ツネ。
轉入、長谷川榮、平第三校より。
大野トヨ、磐崎第一校より。小松
正二、双葉郡龍田校より。久保忠
司、茨城縣より。新卒、伊東彦四
郎、樋口君子、松浦メキ。

第一校(御麻)

在籍、四三一。修業生、三六〇。
卒業生、六八。優等賞、九二。精

第二校(内町)

在籍、一六四三。修業生、一四一
九。卒業生、二二五。優等賞、三
五〇。進步賞、四九。精勤賞、八
二一。六ヶ年精勤賞、四〇。部會
賞、三。吉田ちよ、安齋太郎、佐
藤キミ。新入學生、三三一。

第三校(宮)

在籍、一四五二。修業生、一二四
九。卒業生、二一一。優等賞、二
〇一。進步賞、六九。精勤賞、八
四六。六ヶ年精勤賞、三八。部會
賞、四。山崎泰三、磯上三郎、水

野谷トミ、鈴木敏子。新入生、二
四一。六ヶ年精勤賞、保護者表
彰、三八。
中等學校入學者
中學、粟谷嘉信、白旗二郎、山崎
泰正、蛭田久、藁谷澄男。
高女、水野谷トミ、齋藤カヅ子、
高木喜代子、福島泰子、鈴木キ
子、鈴木敏子。
受驗者一八名中一人名入學。
受持訓導、上遠野裕、鈴木正、三
倉盛威、菅波一作。

一、異動地の申告
田畑を宅地に、宅地を田畑に變換
したものは、山林原野を開墾したる
もの等は、成るべく四月中に稅務
署へ申告して下さい。毎年四月中
に稅務署員が臨検して、若し無申
告の異動地を發見すると、遡つて
徵稅せられ、又開墾地は二十ヶ年
減稅の規定を適用せられず、直ち
に徵稅せられます。(係)
二、リヤカーの届出
リヤカーを使用する人は、早速届
出で鑑札をうけて下さい。縣では
嚴重に取締つて、無鑑札者には、
税金の追徴は勿論、場合によつて
罰金を課せられる事もあります。
若し又鑑札を紛失したときは、其文
字が不明瞭になつたりしたらば、
此際急いで再下附の手續きをす
る様にして下さい。(係)

教員移動、轉任、三倉盛威(大野
第二校へ)新任、佐藤秋夫(新卒)
在籍、二二五名。卒業生、一九名
修了生、一〇六名。優等生、三〇
名。一ヶ年精勤者、一七名。四ヶ
年精勤者、二名。部會賞、長谷川
三郎、齋藤武雄、伊藤由一郎、
藤森弘三。入學生四三名。

救護統計
△六十五才以上老衰者
實人員一八延人員三、九八
金額五四五圓

急 告

一、異動地の申告
田畑を宅地に、宅地を田畑に變換
したものは、山林原野を開墾したる
もの等は、成るべく四月中に稅務
署へ申告して下さい。毎年四月中
に稅務署員が臨検して、若し無申
告の異動地を發見すると、遡つて
徵稅せられ、又開墾地は二十ヶ年
減稅の規定を適用せられず、直ち
に徵稅せられます。(係)
二、リヤカーの届出
リヤカーを使用する人は、早速届
出で鑑札をうけて下さい。縣では
嚴重に取締つて、無鑑札者には、
税金の追徴は勿論、場合によつて
罰金を課せられる事もあります。
若し又鑑札を紛失したときは、其文
字が不明瞭になつたりしたらば、
此際急いで再下附の手續きをす
る様にして下さい。(係)

農會豫算と事業

在籍、一三三。本科卒業生、五三
研究科終了生、一六。成績優良賞
本科卒業生、一二。研究科終了生
三。部會賞、本科卒業生、一。精
勤賞、六三。

△收 入
金一、四三二圓
△支 出
金八四〇圓 技術員給料及
各種獎勵費
金五九二圓 其他諸經費
△本年度事業方針
一、技術員の設置
二、講習講話會の開催
三、農事組合新設の獎勵
四、病虫害驅除豫防
五、自給肥料の獎勵
六、品評會の開催
七、水田二毛作の獎勵
八、副業の獎勵
九、凶作防止に關する件

初區長會議

四月二日午後一時より開會
し左の諸件を協議した。
一、特別稅戶數割申告書記
載に關する件。
二、部落常會開催の件。
三、選肅運動實施の件。

救護統計

△六十五才以上老衰者
實人員一八延人員三、九八
金額五四五圓

內鄉村分會

三月二十一日午前十時、家
政女學校に村軍人分會の總
會を開催し、役員の改選、
前年度の決算報告并に戰病
死者の慰靈祭を執行した。
改選の結果、分會長に大越
一郎、副分會長に吉田吉三
郎氏當選した。

內鄉村青年團

四月四日午前十時より、家
政女學校に於て、男子青年
團本年度總會を開催し、役
員の改選并に本年度事業計
劃を決定した。改選の結果
團長に馬目太平治氏、副團
長大越美身、大谷具治の兩
氏當選した。

教育制度改革概論

矢野 恒太郎 大内民惠 著
風潮字之吉
(四六版二一頁 定價五十錢 郵稅六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同攻撃に違あらず。味れど未だ一人の抗議も現はれず。

我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地ノ御試練ニ基ク眞學黨ノ大精神ヲ拜

發行所 東京三丁目
日本評論社
取次所 内郷村報社

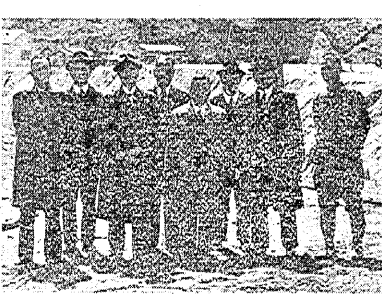
ある。萬事は窮すれば通ずる。必ずやそれ等の「玉」によつて、局面展開なるものを、

うぢやないか、かくして大に英氣を養ひ、協力一致、虎視眈々、帝國の四邊より來襲しつゝ、ある黒雲を一掃

金壹圓 大沼 弓田 木藏
金五圓 郡山 佐々木 忠作
金壹圓 内郷 某氏

社長重役一行來山

四月十二日午後一時五十分分綴驛着で、淺野社長、岡部金山倉田の各重役及山口社長秘書の一行來山。町田住吉兩坑を視察後、淺野翁頌徳記念館に於て、各課主任以上二十六名を招集、社長よりは諸般に關する訓示金山重役よりは新任の挨拶ありて、晚餐の饗應あり。



行一役重長社るけに坑倉長

(寫眞説明) 左より山口秘書、濱崎副社長、淺野社長、倉田重役、金山重役、菅原所長、岡部重役、前川長倉坑長
かくて一行は住吉屋本店に宿泊。翌十三日は、平發電所社長倉田坑を一巡し、社長及山口秘書は、午後一時一分湯本發にて歸京、他の三重役は尙數日滞在、諸般の事務に執掌する處あつた

炭 重役更迭

専務取締役渡邊六藏、取締役石井駒次郎、監査役内山

吉五郎の三氏退職、取締役兼經理部長に金山音治氏、取締役兼本社工務部長に倉田龜之助氏、監査役に遠山元一氏新に就任した。

磐炭の陽來復

往年水没後其儘に放置してあつた綴東斜坑は、先月より倉田重役(當時の礦務課長)を委員長とする、水災復舊委員によつて、セメント充填が行はれ、見事成功目下鋭意排水中にて、漸次出炭を見る事となつたので委員長外二名は、社長より金牌及褒状、其他の委員及従業員一同も、礦業所長より銀牌又は金一封づつを授與表彰せられた。又住吉坑第二本線も四月中に完成し綴坑又卸しのセメント充填も近く開始の運びとなり、それに長倉本坑の着炭も目睫の間に迫り、百花爛漫の好期と相俟つて、全山一陽來復の意氣に燃えて居る。

し、磐炭に於ける職員左記四十六氏は、此程後進に途を開いて、種々優待の下に名譽の退職をした。
大瀧正晴、淡慶三郎、長谷川幾之介、三澤義則、佐々木大作、佐川芳松、齋藤定雄、中尾幹一、田中宇一郎、南波正、吉田二郎、勝田良一、中村俊雄、山崎二郎、勝沼國吉、新妻廣、松浦勝彌、遠藤鑑、間安六郎、青沼淡夫、樋口平久、佐藤今朝治、櫻井深之助、鈴木寅雄、津田正雄、金澤惠三、菅野健吉、齋藤小佐司、眞鍋力、白旗保次、入江徳一郎、井戸沼吉、佐藤彌、菅野平助、遠藤千代次、安積後一、櫻村光次、鈴木行雄、山野邊善長、名久井藤三、箕輪榮治、坂本作之助、志賀鶴吉、佐藤喜作、永洞清兵衛、山岸長太郎

功成り名遂げて 後進に途を開く

精勵恪勤、其功績多大なり

奉仕表彰

冬期間 夜警奉仕をしたる磐炭青年會、峯根、町田、高坂、綴の各支部及住吉温友會の各會員に對し、三月二十八日淺野翁頌徳記念館に於て、表彰式を舉行、それ、感謝狀及

弓道會

猪狩喜平治氏の主宰する同會は、三月二十八日金坂道場に開催、參加者五十余名種々の競技を演じ盛會裡に閉會。

會員表彰

三月二十日淺野翁頌徳記念館に於て、左の通り表彰せられた「表彰」綴支部伊藤菊太郎外四名。町田支部植木國治外四名。峯根支部三瓶清外二名。高坂支部水吉太郎外六名。「精勤」綴支部海川林三外三名。町田支部平澤實外十四名。峯根支部佐藤政之外七名。高坂支部佐藤巨外九名。

辯論大會

於ては三月二十八日淺野翁頌徳記念館に於て、開催。町田支部榎谷光昭君は「良き指導者を得て」綴支部青木富夫君は「我國國民精神に就いて」同箱崎高藏君は「戦後の獨逸を顧みて」峯根支部水野宗三郎君は「勞働と題して」の題下に、それ、雄辯を振つた。

腸チブス經過

昨年十一月、好間川上流に其端を發し、水道を通じて本村に入りたる腸チブス及バラチブスの病菌は、約二百名に近き患者を出し、全村に一大恐慌を與へたのであつたが、幸に當局の措置其當を得、今や終息に近づいた。

日本評論社

きたるは、眞に喜ぶべき次第である。今其統計を示せば左の通りである。
(腸チブス) 坑夫、七四。小學生、一八、撰炭婦、七職工、五。中學生、三。八百屋、二。會社現場員、六看護婦、三。大工、一。魚屋、一。通信事務員、一。坑夫家族、六五。計一八六(バラチブス) 小學生、二坑夫、一。坑内勤務家族、二。計五。
死亡、一九。内三名は産後

衰弱に基因す。
之に要したる經費は、未だ決算するに到らざるも、磐炭及村側を通じて、約壹萬二三千圓程度と推定せらるる因に以上の患者は、昭和八年以來施行しつゝある豫防注射をうけざる者が其大部分で、之をうけたる者は僅かに二名に過ぎず、而してワクチン内服者中より四三名を出したるは、其服用方法不規則なりしによるものと思はれる。茲に我等は大に鑑むべきである。(係)

麥笛吟社 高木 撫山
男爵と云へる種芋植えにけり
出代りや空部屋多き坑夫寮
芦の芽や澄むこのなき礦山の川
顔にある發破の怪我や日向は、
築港もあらかたなりて春の海

開拓記 録 (六)

北海道十勝國上川郡 清水町 清水山莊

拜復、お便り誠に有難う御座います。新年には何程が御忙しい事であつた事と存じます。之からは仰せの通り、山莊の外は勿論、畜舎園場等本格的に整理いたす豫定にいたして居ります。

興村同盟大会には、農學校長は生憎不在でした。お尋ねの木呂子敏彦氏は、中學卒業後三年許り小學校に教鞭をとり、農學校の研究科を出て、學務課社會教育主任補に拔擢せられた人で、小生とは同年お父さんの教育論はズット以前に讀まれたたつたそです。實習場時代にチヨイ／＼遊びに來られたものでした。一月九日 一 耶

拜復 先日内郷村報、昨日は御手紙頂戴いたしました。有難う御座いました。社説は絶對賛成の人々が多いと存じます。私喜見さんの黒井將軍家訪問記事、又二郎公の状況も村報にてよく分り、安心いたしました。昨日平籾のお父さんから御葉書を頂戴いたしました。が、何より先づ開拓記録を三回も繰り返して讀まれたと書いてあり、文字殿を、開拓者の嫁として妻として將た家庭人としてあらゆる角度に氣をくばり、如何に苦しくも、人間完成の喜びを目ざして、精進する様指導方をお願ひするも書いてあり、常陸君始め皆様の成績も大に進歩された事も、喜んで書かれてありました。それから小生の中學時代の同級生、木村五郎君(前磐城高女校長の息、一高在學中?)から、先日校友會名簿で見たが、ごんな生活をして居るかといふ便りがあつたので、手

大内 一 耶

許にあつた村報を二三送り、正月號も其内送りですが、二月號からお父さんからお送り願ひたう御座います。それから村報第二十七號殘部が御座います。頂戴いたしたう御座います。之も木村君が國高生活はごんごんか申して來たので、送つて上げ様と思ふので、一昨日役場の農會に行き、晝食會の宮さんに御馳走になつて來ました。農會備付の圖書中に、外山福男(現在拓殖部長)著農村行政といふ本がありまして、借りて來て讀んで居りますが、仲々爲になります。總統、根本的農村問題、農村自治、農村教育、農村社會事業、備荒制度、農村産業、農業保險、農村金融、農村組合、農村娛樂の十四章に分けて詳細に論じてあります。而して其緒言に、

「最近農村問題に關する著書論文は實に夥しい。然しながら、溺るゝ人を見て、橋の上からあれよ／＼と騒いで居る様に見える。それ船が、それ網ださ口々に云ふても、飛び込んで行く人はいない、私も心を沈めて色々な書も讀んで見た。そして大體それ等を實証的に述べることにした。」「農村行政を綜合的に觀察して、之を通俗的に解説し、同好者の携帶参考書となし、實地觀察の案内書となし、農閑時の讀み物となし、更に本書が農村問題研究への道しるべともならん事を信す」云々といつて居ます。相當農村問題に造詣深い事、うかゞひ知る事が出来るやうです。一月二十二日 一 耶

謹告 清水山莊

昭和十二年三月二十九日誕生 一、命名 由 清 註 由は大内家累代名乗の一字、清は清水山莊の一字

内、縣人三名(吉田、荒瀬、西野、井村宗吾)の光榮祝賀を兼ねて、恒例の新年宴會開催の通知があつたので、何を以て一耶を出席いたさすべく準備をして居ります。次に此頃の山莊生活の概況を御報告いたします。 朝は六時ではまだ少々暗いので、六時過ぎ起床、男達は牛馬の飼付手入等々、次に戸外で日本體操! なか／＼以て、元氣で勇ましいものです。終つて、陛下の萬歳三唱の歌に入つて神佛參拜といふ段取り。女は文字が飯焚きと下の室の掃除。私は二階掃除と、豚、雞の飼育。終つて一家一同神佛參拜。お經は農閑期に入つてからは、觀音經の傷み般若心經をあげて居ります。五人の讀經! なか／＼よいもの

です。それより朝食をすまし、男達は掘り起して置いた根株を割つたり、運搬したり、笹を刈つたり、市街へ行つたり、スキーの稽古をしたり等々、其日／＼によつてやつて居ります。女は縫物とか、洗濯とか、炊事とかで、それ／＼毎日暮して居る有様、雨雪の日に炬燵やストーブで、豆撰りややる云ふ次第です。夜は夕食後一同炬燵に集つて、各自新聞なり本なりを讀んだり話したりの團樂です。尤も夜學には(毎週五日間)二少年が、六時前に出掛け、九時半に歸るにたします。夜學休みの土日兩夜は、珠算の稽古をやらせます。日曜は休みですから、各自思ひ／＼の事をやつて居ります。 此外臨時の用事も出來て來るさいつた譯です。今朝は二少年が、伐木を習つてやつて居る處です。昨日から大寒に入つたので、朝夕はメッキリ寒くなりました。昨朝は室内攝氏零下四度、今朝は同じく五度、室外は零下十三度です。けれども私は、例の通り毎朝つめた着物を着るのですが、内地と變つた感じがしません。寧ろ暖かい様な氣さへいたします。朝床を上げて二階の掃除をします時、手丈は一寸つめた感じがしますが、窓を明け放つてやつて居ります。體中がポツポツ熱くなつて參ります。それが豚舎雞舎に行つて飼付をするのですが、豚はプク／＼、雞はコソ／＼と、何れも元氣よく朝の挨拶をしてくれます。其健康状態を見、安心して引き揚げるのです。先日雞籠が不快であつたので、ストロップの傍につれて來て、抱きながら薬を呑ませたり、餌をやつたり、夜は箱に入れて暖かくして、三日許り看護してやつた處が、全く健康を回復し、毎朝威容よく時を告ぐる聲を聞いては、安心心も喜びもして居ります。 無心の、一羽々々について

内郷村報の

六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を模索す。
二、村内公私各機關の活動状況を報導し、併せて其協働を計り、實現和進努力の實現を期す。
三、本村社會事業の徹底を期す。

- 四、村内の善事興行を奨励し、且之を獎勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、貧賤力を以て國民義務に當る。

内郷村報

天法人則 從順ナ

許りに、同黨異閥も忘れたるが如く、強いて相料合して立ちあがり、一舉林内閣を倒さんす勢ひである。

されざる、まはらざる亦勿論であり、必然である。前途遼遠なる哉である。

賢人も、今日の我政界を嚴密に檢討する時に、眞に公正な良心を有する者の存在を、果して見出し得るか

本報發行は内郷一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を託するものなり。
本報發行 第一編五巻一ノ第百六十八號
發行所 内郷村報社
編輯所 大内 民 邸
電話 石狩市南區一丁目二九